



下水道の最新情報をお届けします！

発行日：2012. 7. 30

下水道機構の『新技術情報』 第55号

(財) 下水道新技術推進機構 <http://www.jiwet.or.jp/>



祭りの後ってなんだか寂しくありませんか？下水道展'12 神戸も終わり一抹の寂しさを覚えます。下水道機構出展ブースも、多くの皆さまにご来場していただき大盛況となりました。ありがとうございました。来年の下水道展は東京にてお待ちしております。

さて、今週も機構メールマガジン『新技術情報』第55号をお届けします。

業務に、Tea Break にどうぞご活用ください。

■□■□トピックス■□■□■

★インフォメーション

- ・下水道展'12 神戸が開催されました
- ・技術マニュアル活用講習会（東京会場 7月20日、神戸会場 7月27日）を開催しました
- ・7月19日（木）に「平成24年度 第2回 横須賀市下水処理場等の津波対策基本計画に関する検討委員会」が開催されました
- ・7月13日（金）に平成24年度第1回管路技術共同研究委員会が新潟県新潟市東区にある（株）福田組牡丹山研修センター会議室にて開催されました

★機構の動き

- ・今週は、8月3日（金）に第1回技術委員会が開催されます

★Tea Break

- ・しちぐあち（ペンネーム 琉美豚さんからの投稿です）

★【新コーナー♪】まる子のゆいまーる

- ・今週は、下水道展'12 神戸の様子をお伝えします！

★国からの情報

- ・7月27日付け下水道ホットインフォメーション

-----  
 インフォメーション （最新の話題です）  
 -----

●下水道展'12 神戸が開催されました

下水道展'12 神戸が7月26日～29日の4日間開催されました。来場者の総数は4日間合計が約7万7千人で、昨年'11 東京の約8万1千人は届かなかったものの一昨年'10 名古屋を超える来場者をお迎えし、会場の神戸国際展示場は連日大盛況となりました。

当機構のブースでは、東日本大震災関連として取り組んだ「津波シミュレーションを活用した被害想定」や「BCPマニュアル改訂」や、震災に伴う電力不足からも着目されている「資源・エネルギー化技術」また、「ストックマネジメント・維持管理」、「浸水対策」等の研究成果 やさらに審査証明交付技術を含む当機構の主な活動について、パネル展示、パソコンによるデモや動画で紹介、図書・パンフレット等の配布を行いました。お立ち寄りいただきました皆様からは、34件の下水道技術の相談をいただきました。また、今回

の下水道展では、研究テーマの理解を深めてもらうため、共同研究を行った民間企業ブースでの展示や併催する技術マニュアル活用講習会での詳細説明等「連携」による内容充実を試みました。当機構は、お子様向けのクイズラリーに参加していたこともあり、ブース前に掲示したクイズを解答する親子連れも含め、多くの皆様にブースに立ち寄っていただきました。(写真は「まるこの結びまーる」のコーナーをご覧ください)

●技術マニュアル活用講習会（東京会場 7月 20日、神戸会場 7月 27日）を開催しました。

当機構では、民間企業との共同研究の成果を、地方公共団体やコンサルタント等の実務担当者の皆様が新技術を採用する際の客観的資料としていただくため「技術マニュアル」等として取りまとめています。今回の講習会は、昨年度の研究成果である「セラミック平膜を用いた循環式硝化脱窒型膜分離活性汚泥法技術資料」、「下水道用マンホールふたの計画的な維持管理と改築に関する技術マニュアル」、「衝撃弾性波検査法による管路診断技術資料」、「監視システムのリスク等低減への活用に関する技術資料」、「汚泥焼却炉からの N<sub>2</sub>O 削減に関する技術資料」について当機構の研究員が解説いたしました。

これら 5 つの新技術については、いずれも管理の効率化等をはかるもので出席者の関心は高く「実証試験」、「優先順位」、「判定方法」、「ケーススタディ」に関する詳細を知りたいなど熱心な質問が出ていました。今回説明した技術マニュアル等につきましては、既に CD 版で地方自治体等へ配付しています。内容に関する質問や「参考となるマニュアルを探している」「こんな技術マニュアルがほしい」といった要望があれば、当機構までご連絡ください。

●7月 19日（木）に「平成 24 年度 第 2 回 横須賀市下水処理場等の津波対策基本計画に関する検討委員会」が開催されました

下水道機構では、数値解析シミュレーションを用いた下水処理場等の津波対策について、横須賀市と共同研究を行っております（H23～24 年度の 2 カ年）。

下水処理場等の津波対策において、今後想定すべき最大クラス津波は、あらゆる可能性を想定した発生確率がきわめて小さいものであり、地方自治体の厳しい財政状況を踏まえると、効率的な対策が求められます。

そこで、効率的な津波対策計画の立案と実行のために、数値解析シミュレーションによる信頼度の高い被害予測や対策効果の確認を行っており、これらの手法の妥当性に関して、科学的、実務的な審議を行って頂くために検討委員会を設置しております。

当日は、委員長である防衛大学の藤間教授の議事進行のもと、横須賀市の「津波による想定外力の考え方」「耐津波対策基本方針」「下水処理場の被害想定結果」について審議が行われました。

「津波による想定外力の考え方」に関しては、津波シミュレーションから得られる流速や水深を基に外力を設定する考え方が概ね了承されました。また、「耐津波対策基本方針」については、津波シミュレーションを活用するという特徴を反映したものとなっており、今後の効率的な耐津波対策の推進に向けた基本計画の軸となります。

今後は、最終となる次回委員会（11 月下旬開催予定）で横須賀市下水処理場等の津波対策基本計画が審議される予定です。

●7月 13日（金）に平成 24 年度第 1 回管路技術共同研究委員会が新潟県新潟市東区にある（株）福田組牡丹山研修センター会議室にて開催されました

当日は、『シールド切替型推進工法の技術に関する共同研究』の1件について議論が交わされました。

本研究は、デュアルシールド工法協会との共同研究であり、前回の委員会では技術の概要等について報告を行ってまいりました。今回は審議の前に（株）福田組技術部ワークステーションにて、二次覆工一体型セグメントの搬送および組立の見学を行いました。これは、φ1650mmのセグメントについて専用台車を用いて、曲線半径10mの模擬トンネル内を搬送させ、その後掘進機内に設置されたエレクタで所定の位置に組み立てを行うまでの過程を実証確認として見学したものです。

本研究は、今回の審議内容をふまえて、今年度中に技術資料のとりまとめを目指しております。

---

機構の動き （機構の行事予定です）

---

●8月3日(金) 15:30～17:00 場所：機構8階特別会議室  
第1回 技術委員会

●8月7日(火) 15:00～17:00 場所：機構8階特別会議室  
第1回津波シミュレーションモデル利活用検討委員会

---

Tea Break （機構職員の感じるまま）

---

●しちぐあち（ペンネーム 琉美豚さんからの投稿です）

もうすぐお盆ですが、私のふるさと沖縄のお盆は、旧盆なのでその年の旧暦によって日にちが違います。今年のお盆は、8月30日～9月1日になります。旧盆は方言で「7月（しちぐあち）」といい、旧暦の7月を意味します。この期間、あちらこちらの集落の路地で「道じゅねー」という、エイサー踊りの練り歩きを見ることができます。

また、私の実家はお仏壇があり、たくさんの親戚がやってくるので大わらわです。お盆をのんびり過ごしてみたくて、いつも母に「お仏壇のある家にお嫁には行きたくない！」と罰当たりなことを言っていました(笑)。そして東京に嫁いだ今、念願通り？夫の実家にはお仏壇はなく、昨年はお盆に海外旅行を楽しみました。

のですが、何か物足りない、というか淋しく、「道じゅねー」と親戚で賑わう実家の風景を思い起こしていました。これが初めてのホームシックというものだったのでしょうか。今年「しちぐあち」は沖縄へ帰ってみようかな。

---

まる子のゆいまる（皆様との交流の場です♪）

---

●先週は、私、まる子も下水道展へ行ってきました！

下水道展'12神戸の様子をお伝えします！

写真はこちら → [http://www.jiwet.jp/mailmaga\\_yuimaru/staff-info/geten2012.pdf](http://www.jiwet.jp/mailmaga_yuimaru/staff-info/geten2012.pdf)

=====

皆さまからの情報提供をお待ちしておえます！

提供はこちらまで→



jiwet@jiwet.or.jp

※テキストは原則 400 字以内。写真等はA 4 版にして原則 2 ページ以内。なお、お寄せいただいた情報はそのまま掲載することを基本としますが、掲載の可否は機構にて判断させていただきます。

↓コチラからは、国からの下水道ホットインフォメーションを掲載しています。



下水道ホットインフォメーション (2012.7. 27 付、国からの最新情報です)

送信元：国土交通省 水管理・国土保全局下水道部下水道事業課企画専門官 吉澤正宏



今週は、下水道界の一大イベント「下水道展」がありました。本日までの4日間、全国の下水道人？が、開催地神戸に大集合したことと思います。下水道展の関連企画として【下水道企画課】より今回2回目となる学生ツアーの報告がありましたが、せっかくなので、こちらで紹介したいと思います。「本ツアーを通じて、一人でも多くの学生さんが下水道界に関心を持っていただけたならと思うとともに、自分がこの世界を志した時の新鮮な気持ちに立ち戻ることができたひとときでした。」とのこと。私たちの仲間が増え、また、下水道展で再会できることを祈っています。

○学生ツアー

下水道展の関連企画として、日本下水道協会主催で、学生ツアーが7月25日に実施されました。これは、衛生工学や土木工学、機械工学等を学ぶ高専生・大学生・大学院生を対象に、下水道事業の一端を知ってもらい、これからの進路や研究・開発等の活動に活かしていただくことを目的としています。

第二回目の今回は、京阪神を中心に26名の学生さんに参加いただきました。(企業側は21名参加) 国土交通省 加藤調整官の基調講演から始まり、下水道展のブースを回る会場見学会、それから午後の情報交換会では活発な質疑応答が行われました。下水道事業の民営化や、メタン発酵に関する技術的な質問等、全体的にやや堅めの質問が多くなっておりましたが、仕事のモチベーションや待遇(給与・転勤など)についても話題が及びました。情報交換会の後、18の企業が参加した企業・団体説明会が実施されています。

さて、先月、この欄で「日本水大賞」についてご紹介しましたが、第15回(2013年)の募集が始まっております。応募の締切は11月30日だそうです。ホームページをご覧ください。

<http://www.japanriver.or.jp/taisyo/index.htm>

★★★★★ 今週のラインナップ ☆☆☆☆☆

○日本-マレーシア下水道分野における政府間協議、ワークショップの開催結果について【下水道企画課】

○WES Hub の HP 開設！【下水道企画課】

○大盛況！ISO 水のワークショップ【下水道企画課】

○シールドトンネル施工技術安全向上協議会中間報告が公表されました  
【下水道事業課】

=====

○日本－マレーシア下水道分野における政府間協議、ワークショップの開催結果について【下水道企画課】

国土交通省ならびにマレーシア国エネルギー・環境技術・水省は、7月19日（木）にマレーシア国プトラジャヤにおいて「日本－マレーシア下水道分野における政府間協議」および、それに併せて「日本－マレーシア下水道ワークショップ」を開催しました。

その結果、マレーシア側より、専門家派遣についてはマレーシア側の課題を考慮して協力分野を詳細に議論していきたいこと、覚書の締結に向けた準備の進展に期待すること、ならびに今後も長期的な協力関係を推進したい旨をご回答いただきました。

[http://www.mlit.go.jp/report/press/mizukokudo13\\_hh\\_000166.html](http://www.mlit.go.jp/report/press/mizukokudo13_hh_000166.html)

○WES Hub の HP 開設！【下水道企画課】

7月24日から WES Hub（水環境ソリューションハブ）のホームページが開設されました。WES Hub は、日本の水・環境インフラの技術と政策を海外に積極的に提供していくための都市による連合体であり、先進的な技術・経験を持つ都市（Alliance Advanced Agency, AAA）が連携し、アジア・太平洋水フォーラム（APWF）のサニテーションに関するナレッジハブである JSC を窓口として日本の知見を世界に発信するものです。今後、HP で WES Hub の活動状況をお知らせしてまいりますので、是非 HP を訪ねてみてください！

<平成24年度 Alliance Advanced Agency（AAA；ハブ都市）>

北九州市、大阪市、東京都、横浜市、神戸市、福岡市（申請順）

<http://www.mlit.go.jp/mizukokudo/sewerage/WESHUB.html>

○大盛況！ISO 水のワークショップ【下水道企画課】

7月25,26日、下水道展のサイドイベントとして、ISO 水のワークショップが開催されました。このワークショップは、水分野において新たに ISO 規格を開発すべき優先項目を選定することを主な目的として、欧米、アジア、アフリカなど世界各国から100名程度参加者を迎え行われました。プログラムはパネルディスカッションとテーブル毎のグループ討議で構成され、全員参加型の活発な議論が展開されました。最終的には参加者の投票により、(1)漏水対策、(2)下水再生利用、(3)下水汚泥有効利用、(4)浸水対策 等が ISO 規格化すべき優先事項として選定されました。この結果は、ISO 中央事務局へ勧告される予定です。

○シールドトンネル施工技術安全向上協議会中間報告が公表されました  
【下水道事業課】

シールドトンネル施工技術安全向上協議会（委員長：今田徹 東京都立大学名誉教

授、事務局：国交省、土木学会、土木研究所）は、平成 24 年 2 月に倉敷市にある JX 日  
鉱日石エネルギー工場内で発生したシールドトンネル工事での事故を受けて、シールド  
トンネルの設計・施工技術について、安全面等の向上を図るため、技術的な検討を  
行うことを目的に設立されました。4 月より 3 回の協議会が開催され、事故に関してこ  
れまでに把握した情報をもとに分析・整理した結果に基づき、今般、全国のシールド  
工法を用いた設計・施工中の現場に対して、設計・施工における注意事項を中間報告  
として公表されたので、お知らせします。

<http://www.mlit.go.jp/tec/kanri/stnkyougikai.html>

★図書のご案内☆

■『水に流せない水の話』著者：グローバルウォータージャパン吉村和就

【下水道企画課】

（7 月 20 日号掲載）

[http://www.kadokawa.co.jp/bunko/bk\\_detail.php?pcd=201112000543](http://www.kadokawa.co.jp/bunko/bk_detail.php?pcd=201112000543)

■丹保憲仁先生著『都市・地域 水代謝システムの歴史と技術』（鹿島出版会）

の発刊について【下水道企画課】

（7 月 5 日号掲載）

<http://www.kajima-publishing.co.jp/>

■「下水道事業の手引 平成 24 年版」が完成しました【下水道事業課】

（6 月 28 日号掲載）

[http://www.suido-gesuido.co.jp/blog/info/2012/06/post\\_43.html](http://www.suido-gesuido.co.jp/blog/info/2012/06/post_43.html)

=====

【参考情報】

◆汚泥から資源を！可能性探る 24 日から「下水道展」 <7/20 神戸新聞>

<http://www.kobe-np.co.jp/news/shakai/0005228156.shtml>

◆豪雨：北陸で局地的に 各地で浸水被害 <7/22 毎日新聞>

<http://mainichi.jp/select/news/20120722k0000m040089000c.html>

◆福島第 1 原発事故 避難区域再編でガイド作成開始 楢葉町 / 福島 <7/24 毎日新聞>

<http://mainichi.jp/area/fukushima/news/20120724ddlk07040142000c.html>

◆越前市 3 地区浸水被害 復旧作業、今も 豪雨から 4 日目、ボランティア訪れ / 福井 <7/24 毎日新聞>

<http://mainichi.jp/area/fukui/news/20120724ddlk18040582000c.html>

◆浜町 浸水懸念なお <7/24 朝日新聞>

[http://mytown.asahi.com/nagasaki/news.php?k\\_id=43000001207240003](http://mytown.asahi.com/nagasaki/news.php?k_id=43000001207240003)

◆福岡市役所前で打ち水イベント <7/26 朝日新聞>

[http://mytown.asahi.com/fukuoka/news.php?k\\_id=41000001207260001](http://mytown.asahi.com/fukuoka/news.php?k_id=41000001207260001)

◆下水処理を自由研究に 県公社が夏休み講座 <7/27 中日新聞>

<http://www.chunichi.co.jp/article/shiga/20120727/CK2012072702000017.html>

◆旧吉野川流域下水道を指定管理へ きょうから事業者を募集 /徳島 <7/27 毎日新聞>

<http://mainichi.jp/area/tokushima/news/20120727ddlk36010611000c.html>

～ 以上、国からの下水道ホットインフォメーションより～



発行元：財団法人 下水道新技術推進機構 企画部

〒162-0811 東京都新宿区水道町3番1号 水道町ビル 7F

TEL 03-5228-6511(代表) FAX 03-5228-6512

ホームページ：<http://www.jiwet.or.jp/>

○お伝えしたい情報をお持ちの方はこちらから→ [jiwet@jiwet.or.jp](mailto:jiwet@jiwet.or.jp)

○メルマガ配信登録についてのお問い合わせはこちらから→ [jiwet@jiwet.or.jp](mailto:jiwet@jiwet.or.jp)

○ニューズレターはこちらから → <http://www.jiwet.jp/newsletter/20120229/>

○コラムの正解はこちらから

→ <http://www.jiwet.jp/newsletter/20120229/seikai2.pdf>

